

平成29年度

久米島町教育委員会の事務に関する
点検・評価報告書

平成30年9月

久米島町教育委員会

ま え が き

久米島町教育委員会では、子ども達が「島に誇り」・「心に夢」を持ち、「個性豊かで創造性・国際性に富む活力ある人材」を目指すことができるよう教育振興に努めております。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、久米島町教育委員会の活動状況及び教育施策の実施状況についての点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表することとされました。

なお、点検・評価に当たっては、点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する3名の方を外部評価委員に委嘱し、助言及び評価を求めることとしました。

久米島町教育委員会委員名簿

*平成30年3月31日現在

職 名	氏 名	任 期
委員（教育委員長）	山元 朝弥	27年7月10日～31年7月9日
委員（職務代理者）	儀間 剛	28年7月10日～32年7月9日
委員	高江洲真知子	29年7月10日～33年7月9日
委員	糸数 真由美	26年7月10日～30年7月9日
委員（教育長）	吉野 剛	26年7月10日～30年7月9日

外部評価委員名簿 (五十音順)

*平成30年8月1日現在

役 職	氏 名
元久米島町役場職員	平田 明
現久米島PTA連合会会長	宮原 忍
元養護教諭	宮平 厚子

I はじめに

1 点検・評価の導入の目的

教育委員会制度は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本方針のもと、教育長及び事務局が広範かつ専門的な教育行政事務を執行するものです。このため、具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後にチェックする必要があります。

このようなことから、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正において、教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが定められています。

町教育委員会は、この報告書を議会に提出するとともに、ホームページ等で公表し、町民への説明・責任を果たし、町民に信頼される教育行政を推進することを目的とします。

2 対象事業と点検・評価の方法

(1) 久米島町教育委員会が策定した「平成29年度久米島町教育委員会事務事業」において、主要な事業の取り組み並びに達成状況について点検・評価を行いました。

(2) 評価方法

教育施策の各項目について、達成度により内部（自己）評価しました。

・達成度（A～D）

A・・・十分達成できた

B・・・概ね達成できた

C・・・やや不十分である

D・・・不十分である

(3) 外部評価

点検・評価にあたり、点検評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する3名の方を外部評価委員に委嘱し、ご意見・ご助言をいただきました。

(4) 評価基準日

平成30年3月31日

(5) 評価実施日

平成30年8月9日

平成29年度 久米島町教育主要施策

久米島町教育委員会

教育主要施策の策定にあたっては、国や県の教育改革の動向、県の重点施策の基本方針等を踏まえ、「平成29年度久米島町教育主要施策」を定めました。

教育の目標

- ◆自ら学ぶ意欲を育て、学力の向上を目指すとともに、豊かな表現力とねばり強さをもつ、幼児児童生徒を育成します。
- ◆平和で安らぎと活力のある社会の形成者として、郷土文化の継承・発展に寄与し、国際化・情報化社会で活躍する心身ともに健全な町民を育成します。
- ◆家庭・学校・地域社会の相互連携のもとに、時代の変化に対応し得る教育の方法を追究し、生涯学習社会を推進します。

目標達成のための主要施策

学習指導の工夫・改善・充実

学校教育においては、幼児児童生徒一人一人に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の能力の育成及び豊かな心、健やかな体の育成など「生きる力」を育む学習活動を教育活動全体で充実させることが重要であり、自らの個性を生かし社会の変化に主体的に対応できる能力や創造性の基礎を培う育成を目指します。

この為、学校においては、児童生徒一人一人の実態等を十分把握し、個に応じた指導体制や指導方法、評価方法の工夫・改善を図るなど、授業作りスタンダードを徹底し全校体制による「わかる授業」の構築に努めます。

また町教育委員会においては、管内各学校が創意工夫を生かした特色ある教育課程を編成・実施できるよう各学校の実情に応じた適切な支援を実施します。

	主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
1	学力調査	1, 標準学力検査 * 小3～6年生、中全学年 2, 全国学力・学習状況調査 * 小6年生・中3年生 3, 県到達度調査 * 小3～6年、中1～2年	小 学 校 ○標準学力検査の教科総合正答率の前年度差が、3年生で+2p、4年生で+1.8p、5年生で+0.3p、6年生で+0.6pであり、全学年で上回った。 ●全国学力・学習状況調査(6年)は、全教科の平均正答率が、県差、全国差ともに-2.2pと若干下回った。 ○県到達度調査では、全教科の平均正答率の県差が、3年生で+6.6p、4年生で+1.6p上回った。 ●県到達度調査の全教科の平均正答率の県差が5年生で-1.4p、6年生で-2.9と下回った。 ☆授業づくりを基盤においた教師の資質向上を図る支援を引き続き行っていく。	B	B
2			中 学 校 ○標準学力検査では、教科総合正答率の前年度差が、1年生で+0.2p、2年生で+2.7p、3年生で-0.1pとなっており、2学年で前年度を上回っている。 ○全国学力・学習状況調査(3年)は、国語AB、数学ABを合わせた全教科の平均正答率が、全国差-5.8pとなっており、前年度(-9.3p)より大きく縮まり、また県の平均正答率と同値となり向上した。 ○県到達度調査では、平均正答率の県差が1年生で+10.3p、2年生で+2.9となっており、県平均を上回っている。 ☆町の一事徹底事項「理由や根拠を基に説明、書かせる活動」を学校訪問、校内研等で説明し授業改善に向けた取組の充実を図っていく。	A	A

3	学習支援員の配置	児童生徒一人一人に基礎学力を身につけさせることを目的に、小中学校に学習支援員を配置する。	○小学校に3名、中学校に4名の学習支援員を配置できたことで、小中ともに下位層の児童生徒の学習に対する意欲が高まり、特に中学校は年度末の諸調査では、2つの学年で県平均を上回った。	A	A
4	検定支援	1, 漢字検定 * 小学校2年生以上が実施 2, 英語検定 * 中学校生全員対象	○漢字検定 H29年合格率 76.6% (前年度比+7) ○英語検定合格率 44.4% (前年度比+10.2) 3級以上の合格者は37名	A	A
5	地域教育資源活用支援	地域の人材や地域環境等を活用した教育活動への支援	○全ての小中学校で、地域教育資源を活用した授業を実施できた。173時間の活用があった。	B	B
6	久米島町 学力向上教 職員研修会	・教職員一人一人が研究授業及び授業研究会を通して相互的な研修を行い、それぞれの教師としての資質、授業力の向上に努める機会とする。 ・中学校区の幼小中連携研修会を開催することで「確かな学力」の確立へ向けての実践の共有化を図る。	○中学校区ブロックで学力向上推進研修会を実施し、授業参観や授業研究会を通して小中の繋がりを意識した取組の共有化を図ることが出来た。 ○ H32、33年度から実施される新学習指導要領の内容について学ぶことができ、移行期間中に取り組むべき事が確認できた。	A	A

道徳教育・人権教育の充実

道徳教育は、児童生徒一人一人に豊かな心を育み、自他の生命を尊重する心を基盤に、美しいものに感動するなど

の豊かな情操、善悪の判断などの規範意識及び公共の精神、健康・安全、規則正しい生活などの基本的な生活習慣を育むとともに、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を培う。このため、学校においては、児童生徒の発達の段階に応じて、道徳的な心情や判断力、実践意欲と態度などの道徳性を培う道徳教育を、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて計画的・発展的に指導を推進します。

人権教育は、生命を大切にし、自他の人格を尊重し、互いの個性を認め合う共生の心などの豊かな人間性を育むことを目指して行うことが重要であり、学校においては、人権尊重の考え方や共生の心について正しく身に付けさせる指導を充実させるとともに、日常的な関わりの中で、教職員、児童生徒相互の人間関係づくりに努めます。

	主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
7	道徳・人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の時間の指導の充実 *指導案を作成しての研究授業の実施 ・全教育活動を通じて、道徳性や人権意識を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全校で指導案を作成しての研究授業が実施され、また全学級担任が1回以上は授業公開できた。 ○「特別の教科 道徳」の研修会が実施でき、道徳の教科化の背景や授業づくりについて学ぶことが出来た。今後も道徳の教科化に向けた研修会の充実が必要である。 ☆町教職員研修会で道徳の授業づくりに関する研修会を行っていく。 	B	B

たくましい心と体を育む教育の推進

幼児・児童・生徒の体力の向上と健康の保持増進を目指し、健康教育及び保健教育の充実を図ります。又、教育活動の基盤となる安全な生活の確保のために諸事業を展開し、生涯スポーツの基礎を培うと共に、体力の向上が図れるよう学校体育の充実に努めます。

	主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
8		<ul style="list-style-type: none"> 体力・運動能力、運動習慣等調査の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校では、総合評価(A評価・B評価)で男子は県差19.8 p、全国差16.5 p上回っている。女子も総合評価(A評価・B評価)で県差17.7 p、全国差11.1 p上回ってい 		

			る。 ○中学校では、総合評価(A 評価・B 評価)で男子は県差 3.6 p、全国差 3.5 p と上回っている。女子も総合評価(A 評価・B 評価)で県差 21.1p と全国差を 15.7p 上回っている。	A	A
9	体力向上・ 健康保持増進	幼児児童生徒健康診断 *健康診断の結果を、健康管理システムを活用し、健康管理に努める。	○福祉課、公立病院、女子栄養大学、各学校との連携が取れ、体制づくりが構築できている。 ○中学生の肥満度傾向は、昨年度に続き減少している。 ○小学生の肥満度傾向は、H28 年度にいったん増加していたが、H29 年度は H27 年度並の数値に減少している。	A	A
10		健康教育講演会等の開催	○各学校において学校保健委員会を年 2 回実施でき、学校の現状を共有し、学校三師(学校医・学校歯科医・学校薬剤師)の助言をいただくことが出来た。 ●専門家による講演会は、開催できなかったが、各校とも養護教諭が中心となり健康教育に関する学習を実施できた。	B	B
11	交通安全指導	新学期に幼・小 1 年を対象に安全協会・警察と連携した交通安全指導を実施している。	○島内に駐在する警察官を指導員として招き、町内の幼稚園児・小学校 1 年生を対象に、信号機の見方、押しボタン式信号機の操作説明、安全な道路の渡り方等を内容とする交通安全教室を開催した。対象の 2 園・6 校の全てが実地での指導を受けることができた。	B	B
	夏休み	夏季休業期間中に、泳力の向	●水泳指導員がおらず未開催となった。職員の指導員研		

12	水泳教室	上を図ることを目的に、B & G プールを活用し、希望者のみ午前、午後各3回開催する。	修への参加や指導員の育成を行い、水泳教室を定例行事として開催する。	D	D
----	------	---	-----------------------------------	---	---

キャリア教育の充実

児童生徒に夢や希望を育ませ、時代の変化に力強くかつ柔軟に対応し、主体的に生きることができる自立した社会人・職業人の育成を図ります。

	主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
13	ジョブシャドー ウイング学習、 職場体験学習	町内各小中学校の児童・生徒が職場を訪問し、仕事の観察や体験をする。	○6小学校の6年生及び2中学校の2年生が、町内の事業所に配置され、職場の見学・体験を行うことができた。 ○商工会の協力により、協力できる事業所も増えてきており、充実した職場見学・体験ができた。 ☆事業所等にキャリア教育について理解して頂くため、引き続き商工会及び関係課との連携を深めていく。	A	A

食育の推進

食生活を取り巻く社会環境の変化などに伴い、食生活の乱れ、肥満・過度の痩身など生活習慣病と食生活の関係が指摘され望ましい食習慣が求められています。学校教育全体を通じた食育の推進に努め家庭や地域、関係機関と連携し児童生徒の健全な成長を支援します。

	主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
		児童・生徒の健やかな成長	○小学生481名・中学生223名・教職員138名に、安定的に学校給食を提供できた。		

14	給食センター運営	を育むため、安全、安心な給食を提供している。	<p>○各学校からの要望により、給食試食会及び食育講話、町内各小中学校全学級に「食に関する指導」の授業が実施できた。</p> <p>○防災訓練に即した非常食体験や、地元産海洋深層水栽培野菜、紅イモを使った地元産デザートなど地場産物を活用した給食の提供ができた。</p> <p>●（公財）沖縄県学校給食会加工委託工場（丸高製パン工場）の委託辞退により、島外からの給食用パンの供給を余儀なくされる。</p> <p>☆学校給食会の調整により「(株)キョーワパン」より、船便にて安定的に供給ができた。</p> <p>●老朽化している施設の移転計画（特に用地）の策定</p> <p>☆公共施設等総合管理計画において、学校給食センターは移転更新となり、「具志川庁舎周辺土地利用計画」で、用地を確保する予定とした。</p>	B	B
----	----------	------------------------	--	---	---

特別活動の充実

児童生徒が充実した学校生活を送り、学級や学校での集団活動を通してより良い生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育むとともに個性の伸長に努めます。

	主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
15	島外派遣費補助	中体連・中文連大会での島外活動時において、1人5千円の助成をしている。尚、スポーツ大会においては上限人数	<p>○延べ人数 472 名へ補助金の交付を行った。</p> <p>○生徒 1 人につき航空（船）賃の上限を 5,000 円、宿泊費を 1 泊上限 2,500 円を補助。さらに、那覇地区及び沖縄県代表として上位大会に出場した場合、航空（船）賃の全額及び、1 泊上限 2,500 円の宿泊費を交付した。</p>	A	A

	<p>枠を設定し助成。(県大会は1人8千円助成)</p>	<p>●地区代表時の主催者指定宿泊先の宿泊料金が高額で、負担が大きいとの陳情があった。</p> <p>●台風で大会が延期になる、飛行機が欠航になったため参加できなくなるといったことで当初見込んだ実績とはならなかった。</p> <p>☆次年度より宿泊費の補助上限額を改定。(地区大会：3,000円/泊，地区代表：5,000円/泊)</p>		
--	------------------------------	--	--	--

平和教育の充実

生命の尊重と個人の尊厳を基本とし、思いやりの心や寛容の心を育むためにも、県や久米島町の歴史や地域の特性を考慮し、児童生徒の発達段階に応じた平和教育を教育計画に位置づけ、学校の教育活動全体を通じて組織的・計画的に推進を図ります。

	主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
16	平和教育	<p>恒久平和を願う平和学習、平和活動の実施。</p> <p>* 6月23日の慰霊の日において、町主催の慰霊祭に各学校代表が参加している。</p>	<p>○全小中学校で、平和に関する学習や集会等の取り組みを実践できた。今後、戦争体験者が減る中で、平和学習の取り組み方を工夫する必要がある。</p> <p>○町内全小中学校から代表が町主催の慰霊祭に参加し千羽鶴の奉納や誓いの言葉を述べることで平和の尊さについて考えることができた。</p>	B	B

国際理解・外国語教育の推進

急速な国際化に伴い、異なる文化を持った人々と共に協調して生きていく資質や能力を育成することが求められています。学校においては小学校段階からの国際理解教育の充実を図り、あわせてコミュニケーションの手段としての

英語に慣れ親しませ、小・中学校の学びの連続性を踏まえた英語によるコミュニケーション能力の育成を一層充実させ、これからの社会で羽ばたけるよう育成を図ります。

	主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
17	国際理解教育	1名のALT（外国人英語指導助手）が、町内の全小中学校で、学級担任・教科担任の助手として、英語学習の指導を行う。	○中学校では、ALTを活用したTT授業が実践できた。 ○小学校では、月1回の配置ではあるが、主に英語の発音を中心に支援を行うことが出来た。	B	B
18		小学校の英語学習の助手として、1名のJET（日本人英語指導助手）が、6小学校の3年生以上の学年で英語指導を行う。	○小学校6校で学級担任とJET（英語指導助手）がTT授業を中心とした実践を行っている。児童も英語を楽しむことが出来ている。 ●打ち合わせの時間確保を工夫しているが充分ではない。打ち合わせで足りない分は、金曜日に町教委で行うことができないか検討する。 ●JET一人で6校を担当するのは、持ち時間が多く、負担感がある。	B	B
19		国際化・高度情報化時代に対応できることを目的に、町内の英検3級以上の中学生から募集し、選考された3名をアメリカにホームステイさせる。	○7月25日～8月17日の日程で、アメリカワシントン州で開催されたホームステイプログラムへ3名の生徒を派遣した。異国での生活を通して、貴重な体験・経験をすることで、言語や文化に対する理解の深まりがみられた。 ●応募した生徒が3名と少なかったため、学校と連携しながら生徒への周知を行い、多くの応募を促したい。	B	B

特別支援教育の充実

児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援するという視点に立ち、児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め生活や学習上の困難を改善又は克服するための適切な指導や必要な支援を行うものであります。学校においては、校内委員会の設置や特別支援教育コーディネーターを中心とした支援体制を構築し児童生徒の状態、特性等や学級の実態に即した教育課程を編成するなど特別支援学級の教育課程の充実を図る組織的な取り組みを推進します。

	主要事業	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
20	教育支援委員会設置	特別な教育的支援を必要とする幼児・児童及び生徒のより良い就学支援を行うための調査・審議を行う。	○保護者の同意のもと申請のあった 27 名の児童生徒全員の心理学検査及び審議を時間をかけて実施できた。 ●臨床心理士が島内にはいないため、心理学検査の日程調整が難しく、検査実施する児童生徒と保護者の負担も大きい。 ★町外の複数の臨床心理士に心理学的検査に関わって頂き、土日を利用し実施した。	B	C
21	特別支援教育支援員の配置	特別な教育的支援を必要とする児童・生徒の教育活動等を支援するために、要請に応じて小学校、中学校に特別支援教育支援員を配置している。	○小学校は 11 名、中学校は昨年より 2 名増の 4 名を配置できたことでニーズに応じた適切な支援を行うことができた。 ○特別支援員の連絡協議会を実施し、指導方法の情報交換ができ児童生徒に対する対処方法を共有することができた。 ●離島のため支援員となる人材の確保が困難である。	A	A

情報教育の充実

高度情報通信ネットワーク社会においては、児童生徒がコンピュータやインターネットを活用し主体的に対応できる「情報活用能力」を育成することが求められています。国際化・情報化の時代に対応する先見性と国際性に富んだ人材の育成を図るため、広い視野を持ち、異文化を理解するとともに、外国語能力の基礎や表現力等のコミュニケーション能力の育成を図る教育を推進します。また、情報化社会に対応できる情報活用能力を育成するため、情報教育の一層の改善・充実に努めます。

	主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
22	小・中学校 情報教育	高度情報通信社会に対応できる為の小中学校の情報機器の整備。	<p>○全ての小・中学校において、デジタル教科書、大型テレビ、PC等を活用したより効果的な情報教育が実践できている。</p> <p>○特別支援員へ ICT 研修を行い、iPad の操作説明やソフトのインストール方法等研修を行った。また、小学校教諭を対象に iPad を使った研修を行い、ICT を活用した指導力の向上を図ることができた。</p> <p>○球美中学校のパソコン室の端末を新しい機種に入れ替え、パソコン・タブレットを活用した授業が中学校においては出来るようになった。</p> <p>●各小学校情報教室のパソコンが古く、故障も多いので計画的にパソコン・タブレット等へ更新が必要である。</p>	B	B

環境教育の充実

環境教育は、環境の保全など持続可能な社会の創造に向け、児童生徒が環境に対する主体的な行動と実践的な資質や能力及び態度を身に付けるために行う必要があります。学校においては、地球規模の視野に立ち、身近な環境や環境問題に対して関心を持たせ、教育活動全体を通し、人間と環境との関わりについて理解を深める取り組みの推進を図ります。

	主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
23	環境教育	クメジマボタルの生息環境と生態を知り、森と水辺環境の大切さを知る学習。	○ホテル館との共催で4月、5月に観察会を2回開催した。両日で約60名の親子の参加があった。今年は1回目をクメジマボタルの観察会、2回目を陸生ホテルの観察会として実施し久米島に生息する数種類のホテルを観察することができた。クメジマボタルの個体数は少なかったが、様々な要因でホテルの出現が変わるなど、環境保全の大切さを学ぶ事ができた。 ●自然観察のため、天候等条件により十分な学習機会を提供できない場合もある。	A	A

生徒指導の充実

生徒指導は、一人一人の児童生徒の個性の伸長を図りながら、同時に社会的な資質や能力・態度の育成と、個々の児童生徒の自己指導能力の育成を目指し、教師と児童生徒の信頼関係及び児童生徒相互の好ましい人間関係を育てるとともに、児童生徒が主体的に判断、行動し積極的に自己を活かしていくことができるような生徒指導の充実を図ります。

	主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
24	スクールカウンセラーの配置	町や県から配置されたスクールカウンセラーを中学校を中心として派遣し、不登校や問題等がある児童生徒への相談支援を行っている。	○町スクールカウンセラーとして、月12日の1日4時間を目安とし、各小中学校に配置をする。 県派遣スクールカウンセラーは、小学校全6校に対し年間11回(1校当たり1.8回)とし、中学校1校当たり11回で実施。 ●児童生徒の相談については、「不安」「無気力」「授業が理解できない」「家庭環境」などの要因が複数重なることが多く、その解消には、本人や担任との継続した相談・支援が必要であ	B	B

			る。			
25	児童・生徒の学校生活を把握する為のいじめ・不登校等調査の実施	毎月、いじめ・不登校等の調査及びいじめアンケートを実施し報告する。	い じ め	○全小中学校で、いじめ等に関するアンケート調査を定期に実施できているので、結果については町教委と学校間で情報が共有できている。 ●いじめの認知件数として小学校 174 件、中学校で 24 件となっている。小学校でいじめ認知件数が増えた理由として、低学年の些細なけんか等が多く含まれている。些細なことも見逃さないといった認識は良いが、学校間、担任間における判断認識の差がある。学校組織で確認、対応をして報告するよう指導していく。	B	B
26			不 登 校	○不登校の件数は小学校が 4 名、中学校が 4 名で、中学校は前年度より 2 名減となっている。 ●今後も学校と情報を共有し、関係機関と連携した対応及び継続的な支援が必要である。	B	B
27		問題の内容に関係する機関（福祉課、警察、県の児童相談所等）と連携し、適切な対応を取る。		○問題行動の事案が発生した際に、警察や病院、社協、県スクールカウンセラー等と連携した取り組みを行った ●問題が長期化する傾向があるため、継続的な連携・協力体制のあり方について検討が必要である。	B	B

幼児教育の充実

幼稚園教育は、園生活全体を通して豊かな心情・積極的な意欲・健全な生活習慣、態度を育て、調和のとれた人格形成の基礎を培うものであります。幼児に適切な環境を与え、遊びを中心とした総合的な指導を通して、幼児の健全な発育を促進しながら、保護者及び小学校との連携を積極的に推進します。

	主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
28	幼児教育	保護者の子育て支援として、午後の保育を希望する園児を対象に、仲里、清水幼稚園で預かり保育を実施している。	○希望する全ての園児を預かることが出来ている。 ○免許を保持する預かり指導員の確保ができています。 ○病気等で休んだ場合、補充職員がいないことから、幼稚園教諭がフォローに入っている。	A	A
29		幼稚園にヘルパーを配置し、安全面等への配慮を行っている。	○清水幼稚園、仲里幼稚園にヘルパーを配置し、それぞれの園において園児のニーズにあった支援ができた。 ●よりよい保育ができるよう、教育委員会や園によるヘルパーの指導力向上のための研修が必要と感じる。	B	B

青少年の健全育成

豊かな心と健全でたくましい青少年を育成する為、学校、家庭、地域社会がその教育機能を発揮するとともに生活体験・自然体験の機会を多く持つとともに、ボランティア活動の活性化に務めます。また、地域社会が「地域の子どもは、地域で育てる」意識を高め、子どもの教育に多くの大人が関わり、地域の教育力の活性化・高揚を図る諸施策を推進し、地域青少年の個性伸長や協調性涵養のために、青少年の社会参加や体験活動の拡充を図り、文化活動への参加の気運を高めるために地域の芸能・文化活動等の促進を図ります。

	主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
		<小学校・なかさと交流> 2月に新潟県十日町市に5	○学校交流や交流家庭での生活体験を通して、気候や風土の違いについて学び、新潟十日町市児童との交流を深め、視野を広げることができた。また、事前学習で沖縄		

30	児童・生徒交流	年生14名を派遣、7月には本町において受け入れ交流を図る。	や久米島を紹介するプレゼン資料の作成や発表の練習に取り組む中で、久米島や学校代表としての自覚を持つことができた。 ●本町、十日町市ともに、児童数の減少に伴い交流生の選考に苦慮している。第54回交流時の会議において、第56回の交流より交流生を2名減にすることを決定した。	A	A
31		<中学校・佐賀市交流> 12月に佐賀市へ中学1年生を16名派遣、8月に佐賀市からの中学生を受け入れ交流を図る。	○夏の交流の事前学習では久米島のことを改めて知るきっかけ作りができた。 ○冬の交流では夏の交流よりも積極的に声をかけたり考えて行動する場面多くがみられた。 ●交流生同士の会話に夢中になりすぎて、引率の説明を聞いていないことが多く、自由時間では時間に合わせて集合ができないことがあった。 ☆事前学習等でルールを守ることを徹底する。	B	B
32	夏休みものづくり体験教室	夏休みに、昔ながらのおもちゃ、最近の手作りの道具等、バラエティーに富んだものづくりに親子で参加している。	○地域の方々へ講師を依頼し、いろいろな素材を活用し、普段できないものづくりを体験することができた。(おもちゃ作り、お菓子づくり、レジン教室、マカロンストラップづくり、ビーズ教室) また、各教室の受講については、原則2つに制限し無理のないスケジュールで受講を呼びかけ、昨年のような混乱をさけることができた。 ●材料代(100円～500円)を徴収する教室について、参加したいが見送った子どももいたとの声もあったので、実施教室の内容についての見直しが必要。	A	A
			○13団体、169名の幼児児童生徒が参加し、各団体にお		

33	ヤングフェスティバル	<p>子ども達が各教室等で学習してきた成果を披露する発表会。</p> <p>* 唄・三線、舞踊、ピアノ、空手、伝統芸能等</p>	<p>ける日頃の練習の成果を発表することができた。家族等見学者は約 230 名で多くの声援で出演者を盛り上げた。参加を見送る団体もいくつかあり、前年度並みのプログラム編成で実施することができた。</p> <p>●例年出演者全員で実施する演目を取り入れていたが、今年度は演目等の調整不足で実施できなかった。</p> <p>●出演団体が多く、開催時間が長時間となる課題があり、出演団体を隔年輪番にするなどの調整が必要である。</p>	B	A
34	久米島町子ども読書まつり	<p>本の楽しさ・読み聞かせの楽しさを保護者に伝え家庭で読書の環境づくりができることを目的として、改善センターにて開催している。</p>	<p>○沖縄県子どもの本研究会による絵本の読み聞かせや本の販売のほか、児童らがお薦めの本を紹介する「ミニビブリオバトル」を開催し、読書に親しむ機会を提供できた。</p> <p>○複合型防災施設(図書館機能)の取組状況を紹介し、施設に関する周知を図ることができた。</p> <p>●参加者が少なかつたため、開催時期を見直すほか、保育園や学校と連携したイベントを企画する必要がある。</p>	A	A
35	久米島現代版組踊り	<p>地域の希望・宝である子ども達(中・高校生)が、生まれ育った地域の文化・歴史に誇りを持ち、郷土の歴史を題材としたストーリーを現代版組踊りとして舞台発表を行っている。</p> <p>* 一括交付金を活用 ・久米島公演</p>	<p>○5年目となり、公演を重ねてきた参加生徒たちの演技力も高まり、上級生から下級生へと指導するという形もできてきた。</p> <p>○自主運営組織の強化をめざし、行政以外からの実行委員の数を増やすことができた。</p> <p>●島内での活動を広げ魅力を発信しているが、中高生のメンバー数が伸び悩んでいる。</p> <p>☆対象学年を小学生まで広げ興味のある子どもたちを参加させる。</p>	B	B

		平成29年3月19日開催 観客：約680名<1回目> 観客：約800名<2回目>		
--	--	--	--	--

社会教育の充実

町民の社会教育活動を支援し、時代のニーズに即した学習活動に対応するため、施設の整備や社会教育指導者、体育指導員の養成・活動を充実させ、多様な学習機会の提供を図ります。また、家庭教育や地域活動を支援し、各関連機関との連携に務め地域の教育力の向上に努めます。

	主要事業	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
36	星空観察会	天文学や宇宙について興味や知識を深めるために、専門家を講師として招いて観察会を実施している。	※講師となる人材を確保出来ず、未開催。	C	B
37	久米島町 新春書道展	文字文化を通して忍耐強さ、素直に学ぶ心の育成及び町内の書道の普及を目標に実施している。	○島内の小中学生の出展数が475点、一般（高校含）が25点となっている。小中学生の出展数は2年連続で増加している。また特別賞には高校生6名が受賞し技術の向上が見られる。 ●保護者の来場が少ない。保護者向けの案内チラシの継続配布と呼びかけを工夫する。	A	A
38	放課後子ども 教室	スポーツ・文化・読書・体験活動等により放課後の子ども達の安全・安心な居場所の確保と学習環境づくりを目的	○放課後の子供たちの安心で安全な居場所づくりとして、6小学校で12教室を実施できた。 ●前年度に比して3教室減少した。 ●学習支援教室については6小学校中1校だけ、講師や	B	B

	として開催している。	安全管理員等の人材確保ができず実施できなかったの で、引き続き学校と実施に向けて調整を行う。		
--	------------	---	--	--

スポーツの振興

生涯スポーツ、健康体力の基礎となる学校体育の充実、生涯スポーツ社会の実現をめざす為、施設・設備の充実を図り、スポーツの普及振興、健康保持・増進に務めます。また、生涯にわたり健康で心豊かな生活を営むためには、自発的・自主的な運動の日常化や健康生活を實踐できる能力の育成が重要であり、地域社会及び関係団体との連携を密にし、支援体制の充実・強化を図ります。

	主要事業	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
39	町民運動会	町民の親睦と体力増進を目的に全町民を対象に実施	○役員の連携もとれており臨機応変に対応し滞りなく運営することができた。 ○アスリート工房の選手と久米島の子どもたちのレースは大いに盛り上がった。 ●大会進行途中、リレーの受付方法やアナウンスのタイミングなど、次年度へ引き継ぎ、円滑な運営を行う。	A	A
40	学校施設の開放 (運動場・体育館)	町民の生涯スポーツ活動の推進と健康増進を図ることを目的に、夜間に学校施設を開放	○3校(比屋定小・久米島西中・球美中)を解放して各団体スポーツを通じて健康増進を図っている。 ●年々利用団体が少なくなっているため、今後解放する学校の数を検討しなければならない。 ●鍵の借用について時々問題がでてくるので代表者会議の際にしっかりと借用については確認していく。	B	B
41	各種競技会支援	小体連・中体連行事等の支援	○児童生徒が、日ごろの練習の成果を存分に発揮し競技へ参加している。保護者の声援やサポートも多く見られ、	A	A

			子どもたちの力になっている。		
42	B & G 海洋センタープールの開放	B & G プールを開放して、町民の健康づくり、子どもの水のふれあい及び学校授業で活用している。	<p>○様々な事業に取り組み、利用者数が増え B & G 財団による海洋センター評価が C → B へ上がった。</p> <p>○小学校 3 校が体育の水泳指導に計画的にプールを活用できた。</p> <p>●職員の雇用に課題があり、雇用形態の検討が必要である。</p>	B	B

生涯学習の推進

生涯学習の推進にあたっては、町民一人一人が学習の各時期において生きがいのある人生を過ごすことができるよう、学習形態と施設の整備拡充や諸施策を展開します。最近の調査によると国民の 3 分の 2 以上が「生涯学習」に関心を示しており、人々がいつでも自由に学習機会を選択し、学習活動を楽しもう・生きがいを見いだそうとする学習意欲が高まりつつあるので、的確にニーズを把握し環境を整備するとともに拡充を図ります。

	主要事業	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
43	三線教室	沖縄が世界に誇る三線を基礎から楽しく習得する事を目的に、初心者向けの教室を実施している。	<p>○週 1 回の教室を通して三線や沖縄の音楽に親しむことができた。</p> <p>○昨年よりも参加者や修了者を増やすことができた（応募 23 名、修了 20 名）</p> <p>●応募しても教室に来なかったり連絡がつかない方がいるので、最初の受付の段階でしっかり参加ができるかどうかの確認をとる必要がある。</p> <p>●指導者の確保ができず開催場所が一か所になった。</p>	B	B
		図書館のない地域を対象に、	○ 4 月の移動図書館では約 200 人の町民らに対し絵本、		

44	移動図書館 (県立図書館)	県立図書館が図書の展示・貸出を行う移動図書館を開催している。 * 2回実施	児童生徒や一般向けの本(約 1,300 冊)を貸出し、読書機会の提供と、読書を通じた交流や学習支援を行うことができた。 ○ 8月の移動図書館では「空飛ぶアメリカンコーナー」が設置され、米国総領事館から県立図書館へ寄贈された英語本を貸出することで、異文化学習や交流を図ることができた。	A	A
----	------------------	--	--	---	---

文化・文化財の保存継承

町民が等しく郷土の文化にふれ、文化財に対する理解を深めるとともに、豊かな文化生活の形成に資するために、文化財の保存・活用及び芸術文化の振興を図ります。このため、町の史跡等の復元整備をはじめ、国・県・町指定文化材の環境整備を推進するとともに、建造物、美術工芸品、史跡、名勝、天然記念物等の調査、また無形文化財、民俗文化財の継承者養成に努めます。

	主要事業	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
45	収蔵資料の管理・活用	収蔵資料の適正管理・公開活用を図るため、資料管理のデータ化を行う。	○博物館機能強化事業の内容を取りまとめ、概算事業費の積み上げを行った。 ○収蔵庫内の害虫調査を行った。 ●資料のデータ化は空調機械の耐用年数を考慮し、機能強化事業の取組みを優先したため、実施していない。来年度の事業化を視野に、改めてデータ化の実施予定を組み直し、進めていきたい。	C	C
46	具志川城跡 保存修理・整備	具志川城跡の適正な保存・活用を図るため調査を実施し、城跡を修復する。	○一部壁面の樹木の伐採作業とトートー石の解説板を設置し、更なる公開活用を図ることができた。 ●入札不調により、29年度予定の階段を設置できず、	B	B

			不用額が生じた。国・県と調整し、全体的な整備計画の見直しを行い、計画的に整備を行う。		
47	町史編集	地域文化を育み、郷土に対する関心と愛着をより深めるため、歴史と文化を科学的に解明する町史編集を行う。	○県内の専門家を編集委員に委嘱し、編集計画を大幅に見直すことで、計画的かつ具体的な編集作業に着手することができた。 ●平成 32 年度～ 33 年度に予定されている資料編と合併 20 周年史発刊に向けて、関係課含めての調整等早急に取り組む必要がある。	B	B
48	文化財管理	数多くある指定文化財の適正管理により、学習や観光への活用を図る。	○指定文化財や歌碑の草刈り清掃を行うと共に、天后宮の保存修理工事により屋根瓦の取替を実施した。 ●歌碑の彫刻面の汚れが目立つので順次清掃作業を行う必要がある。	B	B

教育委員会の活動状況について

(1) 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は原則として毎月 10 日を基本に定例会を開いています。平成 29 年度は 15 回(総合教育会議、臨時会を含む)開催しました。

(2) 教育委員会会議以外の活動状況

○ 研修会 (4 回)

沖縄県市町村教育委員会連合会定期総会及び研修会 (29 年 5 月)

沖縄県市町村教育委員研修会・那覇地区市町村教育委員会連合会研修会 (29 年 10 月)

市町村教育委員会研究協議会沖縄大会 (29 年 11 月)

市町村教育委員会教育委員・教育長研修会 (30 年 2 月)

○その他活動状況（各種行事等への出席）

年度	月	行 事 名
29	4	各小学校入学式・各中学校入学式・久米島高校入学式
	4	新任教職員歓迎会
	5	久米島PTA連合会定期総会
	5	小中学校学校訪問（6小学校、2中学校）
	6	西中ブロック学力向上推進研修会
	6	球美中ブロック学力向上推進研修会
	6	なかさと交流
	7	各幼・小・中運動会（7月～9月）
	8	佐賀市・久米島町中学生交流
	9	久米島PTA連合会研修
	9	現代版組踊り「笠末若茶良」久米島公演
	10	美崎小学校70周年記念式典・祝賀会
	11	久米島地区小学校童話・お話大会
	11	久米島地区中学校意見発表大会
	12	小中学校学校訪問（6小学校、2中学校）
	12	現代版組踊り「笠末若茶良」タイムスホール公演
	12	久米島西中学校10周年記念式典・祝賀会

	1 2	久米島町・佐賀市交流会（冬交流）
3 0	1	町新年会
	1	町成人式
	1	町ヤングフェスティバル
	1	久米島町新春書道展
	1	教育講演会
	2	なかさと交流報告会
	2	中体連角力大会
	3	小・中・高卒業式

《外部評価委員の意見》

【学習指導の工夫・改善・充実】

学力調査については、諸調査の結果を当該年の全国平均や県平均と比較するだけでなく、前年度の結果との比較も合わせて評価すべきだと思います。

中学生については、対前年から高い伸び率を示すなど指導の成果が認められます。県や全国の平均正答率との差が確実に縮まっていますが、さらなる向上をめざして引き続き学習指導の工夫・改善が図られることを求めます。

【たくましい心と体を育む教育の推進】

行政、病院、大学、学校が連携して子ども達の健康づくりに取り組んでいることは大変素晴らしいことであり、その体制や取り組みを継続することがより重要です。

健康教育講演会等の開催については、学校三師、養護教諭のほか、保護者に対する情報提供が重要な目的だと考えられます。今後の講演会等の開催にあたっては、保護者へも情報が行き届くよう、開催場所や方法について工夫するよう求めます。

夏休み水泳教室については、未開催となったことが課題として挙げられます。未開催の原因となった水泳指導員等のスタッフが安定して確保できるよう取り組むことを求めます。

【国際理解・外国語教育の推進】

国際理解教育について、魅力的な留学プログラムを用意したにもかかわらず、少数の申し込みしか得られなかったことが課題と考えられます。募集や周知の方法について改善を求めます。

成果を報告する場を、町三役や生徒だけでなく、保護者へも伝える場がないか工夫してほしい。

【特別支援教育の充実】

教育支援委員会設置については、臨床心理士を安定的に確保することが課題として挙げられます。臨床心理士の見識を必要とする機会は増えており、今後さらにニーズが高まることも見込まれるため、安定的な確保に向けた取り組みを強化するよう求めます。

将来のためにも是非予算を投入し、町雇用の臨床心理士を雇用してもらいたい。

【生徒指導の充実】

児童・生徒の学校生活を把握する為の問題行動調査の実施のうち、いじめについては、その有無についての判断が非常に困難な作業であることから、引き続き教育委員会と学校が密に連携をとり、情報を共有し、実態の把握に努めることを求めます。

【幼児教育の充実】

幼児教育については、保育所・幼稚園で継続的な取り組みが行えるよう、組織体制の整備が進められることを求めます。

【青少年の健全育成】

ヤングフェスティバルについては、各種のイベントの参加者が軒並み減少するなかで、開催時間が不足するほどの参加者を得ていることは成果だと考えられます。演目時間の調整等で運営の効率化を図り、引き続きすべての希望団体が参加できる形で開催されるよう求めます。

久米島現代版組踊りについては、参加生徒の減少、特に男子生徒の減少が課題として挙げられます。学校や地域の協力を得ながら、現代版組踊りを練習し舞台を経験することで、自信をつけたり、表現力を高めたりできる良さをPRするなど、参加者を増やす取り組みを強化していくことを求めます。

【社会教育の充実】

放課後子ども教室については、講師や安全管理員等の役割を担う方々への負担が人材を確保できない一因となっていると考えます。負担軽減のため、学校との連携を図り、人材の確保に努めるよう求めます。

【文化・文化財の保存継承】

町史編集については、工程の遅れが懸念されます。次年度において、進捗状況、発刊までの具体的なスケジュールが提示されることを求めます。

【総括】

外部評価員との間で行う事務点検・評価は、外部から直接に評価を受け、意見を聴取する貴重な機会なので、今回の評価・意見が今後の教育委員会の取り組みに活かされることを期待します。

教育委員会の事務・事業等については、取り組み内容が多様でかつ多数行われており、マンパワーの不足が懸念されます。事業実施に影響がないよう、内部で十分に検討することを提言します。